佐倉教会の「生みの親」とされるアメリカ人宣教師

デルバート・ハストン・ソルントン、モード・イェーツ・ソルントン夫妻の略歴

Delbert Huston Thornton (D.H.Thornton)

Maude Yates Thornton (M.Y.Thornton)

曾孫（ソルントン夫妻の長女の孫）であるスティーブ・アーウィン氏が、家族に残された回想録、写真、当時の宣教報告誌『Sent of God』、および佐倉教会の記録（当時の日誌とその冒頭に書かれた沿革。『八十年記念誌』・『百周年記念誌』所収）によって作成した略歴に、協力した佐倉教会の小島道裕が補筆しました。

なお、Thornton の日本語表記は、当時にならって「ソルントン」としています。

1. モードの来日と銚子での活動（1901～1903 年）

モード・イェーツ（妻）は、1901 年にアメリカから日本へ渡り、千葉県銚子を拠点として宣教活動を始めました。銚子では、アグネス・グレン宣教師やスメルサー宣教師夫妻らとともに生活し、日本語を学びながら、聖書の学び、伝道集会、近隣の村々への訪問などに携わりました。

その後モードは山形県新庄でも伝道活動を始め、デルバートの来日を迎えることになります。

2. デルバートの来日と横浜での結婚（1903 年）

デルバート・ハストン・ソルントン（夫）は、1903 年 5 月 30 日、シアトルから汽船「加賀丸（Kaga Maru)」に乗って日本へ向けて出発しました。船内でペストの疑いがある患者が発生したため、乗船者は検疫を受けました。デルバートは 6 月 28 日に上陸しました。翌 1903 年 6 月 29 日、デルバートとモードは横浜で結婚しました。

結婚後、夫妻は短期間銚子に滞在し、その後、新庄へ向かいました。

3. 新庄での宣教活動（1903～1904 年）

夫妻は 1903 年 7 月 9 日に新庄での活動を再開しました。同年 7 月 27 日付のモードの手紙と夫妻の連名による宣教報告には、集会、聖書の学び、地域住民との交流、伝道に対する反対など当時の新庄での生活が詳しく記されています。

最近、家族から新たな写真が見つかりました。写真には若いデルバートとモードが写っており、台紙には新庄の小野写真館の名前が印刷されています。裏面には「Jan.4,1904」、「Mr & Mrs Thornton」と手書きされています。撮影日かは確定していませんが、佐倉へ移る直前、新庄時代を伝える貴重な写真と考えられます。

4. 佐倉での宣教活動（1904 年 1 月～1906 年 2 月頃）

佐倉教会の資料によると、夫妻は 1904 年 1 月 24 日、新庄から佐倉へ移住し、伝道活動を始めました。これを裏づける同時代の資料として、1904 年 2 月 22 日付の夫妻連名の手紙が『Sent of God』に掲載されています。この手紙は「Sakura, Shimosa, Japan」と記され、佐倉での伝道集会、聖書の学び、周辺地域への訪問などについて報告しています。

また、1904 年後半の『Sent of God』の宣教師住所録にも、夫妻の住所として佐倉が掲載

されています。モードが晩年に記した回想録には、日露戦争終結時の 1905 年 9 月頃にも、家族が佐倉の二階建ての家で暮らしていたと読める記述があります。

なお、『佐倉教会八十周年記念誌』の島津虔一牧師の記述によって、ソルントン夫妻は 1904 年 7 月に「佐倉を去った」とされていましたが、その時の木村定三牧師の着任を「交代」と誤解したものであることが判明しました。夫妻は、その後も 1906 年 2 月頃の離日まで佐倉で活動しました。1904 年に佐倉に来た夫妻が住んだ家については日米の資料にあり、①間之町 1/24～3/4、②並木町の裏小路 3/4～6/3、③仲町 6/3～、となります。仲町の家は、初代の「佐倉福音伝道館」（おはやし館の左側、写真は 1908 年）と思われます。

5. 日露戦争と佐倉での家族生活

モードの回想録には、日露戦争中の日本での生活について、印象深い記述が残されています。外国人宣教師に対する警戒、生活物資や燃料の不足、そして戦争終結後の混乱について記しています。

特に、1905 年 9 月の講和（ポーツマス条約）に伴う騒動の際、佐倉で一家の住む家が襲撃される恐れが生じたため、夫妻は幼い息子クリフォードを連れて、一時的に横浜へ避難したと回想しています。横浜では、以前から交流のあったスメルサー宣教師夫妻のもとに身を寄せました。その後、情勢が落ち着くと、宣教活動が再開されたと記しています。

6. 帰国後のアメリカでの活動

モードは回想録の中で、日本での約 5 年間の宣教期間の後、健康上の理由もあってアメリカに戻ることになったと記しています。正確な帰国年月日はまだ確認できていませんが、佐倉教会の日誌では、1906 年 2 月 4 日の礼拝でソルントン師が説教をしていることは確認できます。

夫妻はその後、カリフォルニアにいるモードの両親のもとに滞在し、アリゾナ州フェニックスへ移りました。フェニックスでは、日本人移民を対象に、英語教育、聖書の学び、礼拝などを通じた活動に携わりました。

約 9 年間のフェニックスでの生活の後、夫妻は 3 人の子どもとともにロサンゼルスへ移り、日系人のためのキリスト教宣教と教育活動に取り組みました。モードの回想録には、ロサンゼルスの日本人街での伝道、英語夜間学校、第二次世界大戦中の日系人強制収容に伴う困難、戦後の教会再建、さらに南カリフォルニア各地の日系人教会との関わりが記されています。

夫妻の活動は、日本での宣教にとどまらず、アメリカに渡った日本人とその家族への長年の奉仕へと続いていきました。

写真：ソルントン夫妻肖像
1904 年 1 月 24 日に佐倉に移る直前、山形県新庄の小野写真館で撮影されたもの。
デルバート（夫）は 29 歳、モード（妻）は 19 歳